

探究通信

2025 (第1号)
富山県立高岡高等学校

2025年6月発行
編集 企画研究部

令和7年度が始まりました。1年探究科学科の皆さん、探究科学科へようこそ！「探究する力と心」を磨いていきましょう！今号では、3月、4月に探究科学科の生徒が参加した活動の様子について紹介します。今後も様々な活動や発表の機会があると思います。アンテナを高く張り、積極的に参加しましょう！

1年探究科学科が科学探訪へ

令和7年3月12日(水)～14日(金)、1年探究科学科が、科学探訪に行ってきました。

1日目(3/12)：東京大学訪問(本校卒業生による講義、キャンパスツアー)、卒業生との懇談会

2日目(3/13)：東京都内各施設 班別研修、班別報告会(クラス別)

3日目(3/14)：つくば研究学園都市での研修

・午前；宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターの見学ツアー

・午後；(1班)JICAつくば

(2班)地質標本館と物質・材料研究機構(NIMS)

以下に、1日目の卒業生との懇談会と2日目の班別研修について、生徒の声を紹介します。

《卒業生との懇談会》参加してくださった現役東大生・院生から伺ったアドバイスを紹介します。

【高校時代について】

- ・勉強ができる力より勉強をする力があることが大切。勉強ができないから諦めるのではなく、できないに関わらず努力をし続けることが学力を伸ばす。
- ・将来何をしたいかは好きな教科をベースに考え、他教科と組み合わせ考えてもよい。



【大学生活について】

- ・研究できることを見つけられること、高い志を持つ仲間たちと勉強できることが東大の良さ。

【なぜ勉強するのか】

- ・誰も答えを知らないことを解明していく醍醐味、それが勉強する意味だと考えている。AIの間違いは正しいことを知らなければ気づくことができない。これも勉強する意味だと思う。

《班別研修 -首都圏内各施設にて-》班別研修を終えての生徒の感想を紹介します。

「求められている人材」(東証証券取引所)

「課題設定ができ、自分たちの想像を越えてくれるような人を求めている」と聞いたときには、必要とされていることができることは当たり前で、それ以上に何ができるのかがより大切だと思いました。



「仕事のやりがいと誇り」(ソニーミュージック&小学館)

それぞれの形でやりがいを感じ、仕事に誇りを持っていた。職業選びではつい脚光を浴びやすい役割に目が向きがちだが、一度視野を広げることで、様々な仕事があることを学び、それぞれの仕事の良さを現場で実感できた。

*その他の主な訪問先…東京科学未来館、国会議事堂、IIJ、MIXI、環境省、外務省など

外部大会で探究活動の成果を発表

★「京都大学ポスターセッション2024」に参加 ～同大百周年時計台記念館にて～

令和7年3月15日(土)「京都大学ポスターセッション2024」に課題研究国語2班(2年人文社会科学科)が参加し、「SNSにおける『笑』のもたらす効果について」をテーマに発表しました。音声学や言語学的なアプローチから、「笑」の使用の有無による会話の受け手の印象について調査し、結果を分析した内容を発表しました。大会には課題研究に熱心に取り組んでいる高校の代表生徒が全国各地から集まっており、大学・高校の教員も交えての質疑応答では専門性の高い議論が交わされました。

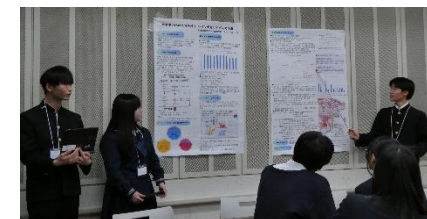


【生徒の感想】

- ・他校の研究内容の面白さや、発表の場慣れしている様子などに圧倒され、自分自身の発表までの向き合い方について振り返る機会になった。
- ・普段の勉強やインターネットで調べて情報を得るだけに留まらず、自分の頭の中で思考したり、得た知識を他の知識や自分の身の周りのものに結びつけて考えたりすることが重要だと思った。

★「ミライシコウ金沢(高校生探究成果発表会・高校生国際会議)」に参加

令和7年3月15日(土)金沢大学で第3回ミライシコウ金沢が開催されました。「プログラムA高校生探究成果発表会」には2年人文社会科学科から地歴公民2班、理数科学科から化学1班、海外研修プレゼン班からジェンダー班、普通科企業課題班からclover farm班が、「プログラムB高校生国際会議 Youth and Climate Action Conference2025」には1年生4名(普通科2名、探究科学科2名)が参加しました。高校生国際会議では、気候変動に関する政策立案などをテーマに、様々な観点から英語の講義を聴きました。英語を使って他校の生徒と意見を交換する貴重な体験となりました。



【生徒の感想】

- ・全国の高校生も自分たちと同じように試行錯誤を繰り返し、探究活動をしていたのだと感じられた。全国から集まった高校生に自分の住む地域について考えていたことを伝えられて良かった。
- ・インプットだけでなくアウトプットも大切にすることで、他の人にわかりやすく説明したり要約したりすることができるといった。



東大金曜講座(2025 夏学期)がスタート

令和7年4月18日(金)から、東京大学教養学部主催の「高校生大学生のための金曜特別講座」2025年度夏学期が開講され、5月9日(金)には、東京大学文書館の森本 祥子准教授による講座「活動を記録する、記録を活用する：アーカイブズを使いこなそう」を視聴覚室と16H教室で視聴しました。会場には生徒教職員合わせて約50名が集まり、記録とは何かということについて興味深い講義を受講しました。



【生徒の感想】

- ・今まではそのアーカイブズが「どんな内容か」という観点のみを重視していたが、「誰が記録したのか」や「どのような目的で記録したのか」についても考える必要があると分かった。
- ・今後の探究活動では今回学んだことを活かし、記録を見つける手段を増やし、資料を適切に選択できるようにしたい。